

平成 30 年度川口地域委員会 第 1 分科会の活動報告について

1 分科会の体制

○分科会長：水落 優 副分科会長：鈴木 幸子

○分科会委員：関 正一、関 達夫、中林 里江、黒島 幹夫 計 6 名

2 検討テーマについて

「交流人口増加に向けた地域資源の活用」

川口地域には、地域の宝のほか、えちご川口温泉や川口運動公園など、多くの地域資源が存在している。また、魚野川に架かる「川口やな場」と親水公園「魚野川水辺プラザ」が平成 23 年 7 月の新潟福島豪雨から 7 年の歳月を経て、昨年 7 月 1 日リニューアルオープンし記念式典も開催された。

川口やな場や水辺プラザがオープンしたこの機会を捉え、地域の活性化を図る一つの手段として、「交流人口の増加に向け地域資源をどのように活用するか」をテーマとして検討を進めてきました。

3 分科会の開催状況

分科会等	開催日	会場・場所	内 容	委員の出席数
第 1 回分科会	6 月 2 9 日	支 所	○正副分科会長の選任 ○検討テーマについて ○活動計画について	4 名
第 2 回分科会	12 月 17 日	支 所	○地域資源の活用状況の確認 ○課題等についての意見交換	4 名
第 3 回分科会	3 月 18 日	支 所	○地域資源の活用について ○活動報告のとりまとめ	6 名

4 分科会の検討内容と結果

(1) 対象とした地域資源

① 地域の宝

・魚野川と信濃川の河川空間（川口やな場、水辺プラザなど）

- ② 川口運動公園
- ③ えちご川口温泉・ホテルサンローラ・古民家
- ④ 中越大震災の経験と震災メモリアル施設
 - ・メモリアル施設…川口きずな館、震災メモリアルパーク
 - ・震災の伝承や震災の経験を活かした「防災」・「減災」プログラム など

(2) 活用状況と課題・意見など

①地域の宝

魚野川と信濃川の河川空間（川口やな場、水辺プラザなど）

- やな場を見学後 1 / 3そのまま帰る ・ 2 / 3 別館で食事をして帰る
- 利用が増えるのは「海の日」の頃から秋の彼岸の頃まで
 - ・ 1 / 3の利用者をターゲットにした取組みを考える（別館外での食事）
 - 川口地域内でお金を落としてもらう為の仕掛けが必要
 - 河川敷での販売や、他店舗への誘導など
 - 船下り（過去に行ったことがあるが、現在は規制が厳しい）

②川口運動公園

○屋内施設の活用（体育館、すぱーく川口）

- ・体育館は冬期間閉鎖している
 - 利用者がいるのではないか
 - ex. バレーボール・テニス・野球・フットサル（冬期間、市内の体育館は予約が取れない場合がある）
 - 体育館前の除雪をする必要がある。
- ・施設にガラスを防御するネットがないため、球技の利用に制限がかかる。

○多目的芝生広場（パークゴルフ協会の撤退）

- ・利用方法の検討（川口のパークゴルフ人口は少数である）

○オートキャンプ場のトイレ→和式から洋式へ（施設の老朽化）

- ・利用者（予約者）減少の一因となっているのか。（H28→H29 23%の減）
 - 他者の同様施設はより快適な環境を整えている。

○キャンプ場と温泉の連携→現在は施設の割引

○運動公園の冬期間の利用促進

○1日過ごすことがない→きずな館の活用

③えちご川口温泉・ホテルサンローラ・古民家

○運動公園周辺施設の核として有効利用できないか

- ・現在は、施設の割引など
- ・他施設と連携で、定期的な合宿誘致の可能性を模索

④ 中越大震災の経験と震災メモリアル施設

○川口きずな館の今後の方向性

- ・防災の伝承・防災プログラム → 小規模イベント（交流）目的へシフト
 - 交流（きずな）をメインに
 - 各種イベントを開催
 - 運動公園との連携（運動公園・きずな館周辺に1日いられる施設に）

⑤その他

- カワコス→利用後にパンフを配布（飲食店）
- 杜のかたらい→雨漏り、トイレの臭いがひどい

(3) 分科会から提案

- 資源全体をコーディネート出来る組織・人材の確保
 - ・予約を一か所で出来る体制
 - ・周辺施設、イベントなどとの連携
 - 現状では複数の施設を利用する場合、それぞれに予約を入れる必要があり、煩雑である。
- 各資源等を連携及び利用しやすくする仕組み作り
 - ・各資源は、市管理・指定管理（複数）・個人所有等、いろいろな形態があり、それごとに管理者、管理方法及び利用方法が異なっている。
- 降雪期に利用を中止している施設の有効活用
 - ・新たな利用者の発掘
 - ・冬期間開けるための除雪費の負担の問題がある。
- パンフレット → 共通に利用できるパンフレット等の作成
 - ・川口地域の宿泊、食事、散策、観光ルートなど
- 情報発信
 - ・インターネット上での情報発信（ポータルサイト的なHPの作成）
- 新たな地域の魅力の発見、発信
 - ・写真の家（中條氏）、やまぼうし、三十三番めぐり、地区のイベントと絡める
- 継続的な審議
 - ・単年度の議論では、各資源の深堀等に限界があるため、継続的な議論をする必要がある。